

中期経営計画「UBE Vision 2030 Transformation ~1st Stage~」の進捗

中期経営計画「UBE Vision 2030 Transformation ~1st Stage~」は2030年の目指す姿（長期ビジョン）の実現に向けた最初の3か年の行動計画です。2022-2024年度は、スペシャリティ化と地球環境問題への取り組みを強く意識した事業構造改革を着実に進めながら、収益基盤の強化を図るとともに、将来のさらなる成長に向けた積極的な資源投入を実施する期間と位置づけています。

2023年度業績は、ベーシック事業の悪化を主因として中期経営計画に対し未達となりましたが、スペシャリティ事業については安定した利益水準を維持しています。引き続き、スペシャリティ事業の拡大とベーシック事業の構造改革に取り組み、グローバルでの持続的成長を目指します。

基本方針と重点施策 関連ページ
 スペシャリティ化学を中心としてグローバルに利益成長を追求……………P24-33
 地球環境問題に対応した事業構造改革……………P34-35、P50-57
 持続的成長に向けた人的資本の充実……………P60-63、P64-69
 DXの推進による企業価値の向上と顧客価値の創出……………P44-47
 ガバナンスのさらなる向上……………P73-83

数値計画と進捗

主要項目 (億円)	売上高	2022年度		2023年度		2024年度	
		原計画	実績	原計画	実績	原計画	予想
営業利益		345	162	410	225	400	270
経常利益		310	△87	450	363	470	370
親会社株主に帰属する当期純利益		210	△70	320	290	330	295
経営指標	売上高営業利益率 (ROS)	6.8%	3.3%	7.9%	4.8%	8%	5.3%
	自己資本当期純利益率 (ROE)	5.6%	△1.9%	8.2%	7.5%	8%	7.1%
	投下資本利益率 (ROIC)	—	△2.0%	—	4.7%	(参考)6%	4.8%

ポートフォリオ別数値計画と進捗

ポートフォリオ	2022年度		2023年度		2024年度	
	原計画	実績	原計画	実績	原計画	予想
売上高 (億円)						
スペシャリティ事業	1,435	1,382	1,490	1,529	1,620	1,725
ベーシック事業	2,385	2,369	2,520	2,010	2,400	2,175
機械事業	1,060	969	980	969	1,000	1,040
その他(調整額*を含む)	220	228	210	174	180	160
計	5,100	4,947	5,200	4,682	5,200	5,100
営業利益 (億円)						
スペシャリティ事業	235	183	245	186	240	240
ベーシック事業	110	△34	165	1	155	10
機械事業	50	52	55	72	60	70
その他(調整額*を含む)	△50	△40	△55	△34	△55	△50
計	345	162	410	225	400	270

*「調整額」にはポートフォリオ間消去を含む。

中計最終年度の目標に対し、ベーシック事業の悪化により全体として未達となりますが、スペシャリティ事業は目標達成を見込んでいます。

ベーシック事業 — 中国経済の停滞等の影響を強く受け、中計原計画の達成は困難な状況です。カプロラクタムとナイロンポリマーの業績が販売数量の低迷や販売価格の下落等により想定を大きく下回り、また工業薬品では国内工業用途におけるアンモニア需要の低迷と、アンモニア国際市況下落の影響を受けています。

スペシャリティ事業 — 在庫調整等の影響を受けた製品もあるものの、分離膜やセラミックス、高機能コーティング等の着実な成長が全体を下支え、最終年度では原計画に追いつく見込みです。

機械事業 — 機械製品、アフターサービスとも比較的堅調に推移しており、原計画を上回る見込みです。

事業ポートフォリオ

ポートフォリオ区分	対象事業
スペシャリティ事業	●ポリイミド ●分離膜 ●セラミックス ●半導体ガス ●セパレータ ●コンポジット ●C1ケミカル ●高機能コーティング ●医薬 ●フェノール樹脂
ベーシック事業	●ナイロンポリマー ●カプロラクタム・硫安 ●工業薬品 ●エラストマー ●ポリエチレンフィルム ●樹脂加工品

その他:海外販社、物流サービス、不動産事業、機械等
 (注)青字の事業に係る成長戦略はP24-33をご覧ください。

成長に向けた施策

現中期経営計画期間ではスペシャリティ事業で多くの成長投資を決定・実施しており、次期中期経営計画以降での利益成長を実現します。

ポリイミド	●フィルムとBPDAの新設備が2024年度下期に稼働予定。 ●デジタル機器の拡大や高機能化に伴う需要拡大に対応する。	セパレータ	●能力増強を決定、2026年度稼働予定。 ●自動車の電動化に伴い拡大する需要に応える。
分離膜	●能力増強を前倒しで決定、2025年度上期稼働予定。 ●旺盛な需要に応え、追加増強も検討中。 ●次世代の環境・エネルギー市場を開拓。	C1ケミカル 高機能コーティング	●米国におけるDMC・EMC設備の新設を決定、2026年11月稼働予定。 ●タイでは2023年度にPCDの増強を完了。
セラミックス	●能力増強を前倒しで決定、2025年度下期稼働予定。 ●自動車の電動化に伴い急拡大する需要に応える。	医薬	●2022年に(株)エーピーアイコーポレーションを取得し、さらに2024年12月の吸収合併を予定。 ●CDMO業界でのプレゼンスの向上とさらなる発展を目指す。

キャッシュ・アロケーション

創出したキャッシュを成長投資、研究開発および株主還元に充当します。

キャッシュ・イン	3年間累計		配分可能総額 2,560億円 原計画 2,320億円	キャッシュ・アウト	3年間累計	
	原計画	3か年見通し			原計画	3か年見通し
営業キャッシュ・フロー*1	1,820	1,440		設備投資・投融資	1,300	1,600
資産売却等	150	150		研究開発	320	310
負債調達	0	620		負債返済	120	0
株主還元	290	300		株主還元	290	300
2022年3月末				2025年3月末		
キャッシュ	350	350*2		キャッシュ	290	350

*1 研究開発投資前の営業キャッシュ・フロー

*2 2022年4月1日付でUBE三菱セメント(株)に移管した現預金を除く

(参考)2025年3月末 連結貸借対照表
 総資産:8,500億円 有利子負債残高:2,690億円
 自己資本:4,240億円 自己資本比率:49.9% D/Eレシオ:0.63倍

ポートフォリオ別経営資源投入計画と進捗

分離膜、セラミックスの前倒し投資やC1ケミカルの北米展開等によりスペシャリティ事業の成長投資が中計原計画と比較して増加しています。

